

オンデマンドとリアルタイムの融合で飽きさせない授業

科目名：企業金融特研 I

担当教員： 内田交謹 教授（経済学研究院）

形式：リアルタイム型+オンデマンド型

学年：大学院生

人数：11人

ツール：Zoom

評価方法：小テスト、平常点

Q1. この授業で取り入れられた工夫について、改めて具体的に教えてください

90分のリアルタイム型形式の授業の中で、「動画視聴+ディスカッション」を2-3回繰り返し、飽きさせない工夫をしました（図1）。学生は、授業前にも、アップされたオンデマンドの教材を見ることができます。また、授業中に時間を取ることで、その時に各自のペースで見えることもできます。動画中にはその後のディスカッション時間における「問い」もかかれており（図2）、これについて考えることができるよう、動画を見る時間は少し長めにし、その後のディスカッション時間で双方向のやりとりを行いました。

Day 3: October 15	
1.	1:00 – 1:04 Live Ice Break
2.	1:04 – 1:19: Watch 2_video3 file (12 min. 02 sec.)
3.	1:19 – 1:34: Live Discussion 2_Live3
4.	1:34 – 1:45: Watch 2_video4 file (8 min. 49 sec.)
5.	1:45 – 2:05: Live Discussion 2_Live4
6.	2:05 – 2:23: Watch 3_video1 file (10 min. 18 sec.) .
7.	2:23 – 2:30: Live Discussion 3_Live1

図1 授業の流れ（実際の資料より）

Q2. 取り入れた結果、学生の反応はどうか

以下は、学生がコメントしてくれた点です。

- ・ zoom のオンライン講義と、録画のビデオ講義の両方を使用し、飽きない工夫がされていた
 - ・ 講義中に質問がいくつか用意されており、一方通行にならないようにされていた
- このように、当初の目的は十分に達成できたように感じています。

4. Understanding geography effect
■ Question: Please speculate the idea behind Lang et al.'s (1991) measure of free cash flow:
□ Free cash flow measure of Lang et al. (1991)
> $100 * \text{Cash flow} / \text{assets}$ if market-to-book < 1
> 0 if market-to-book >= 1

図2 ディスカッションへの「問い」

Q3. 取り入れるために必要な準備

ビデオを作成し、それを事前に Moodle にアップ

しておくことに加えて、毎回の授業に関して時間管理が重要なので、図1のように授業時間を細かく設定すること、授業中に様子を見て調整することが必要です。

～インタビュー雑感～

オンデマンド授業では学生は自分のペースで学習できますが、自身の主体性に依拠するところが多くなります。一方で、リアルタイム型授業では、学習者個人のペースに合わせて授業を受講できないという「ジレンマ」がありますが、このジレンマをうまく乗り越えた実践のように思います。教員の時間管理が少し大変ですが、多くの先生にとって実践しやすい方法のように感じました。